

パブリックコメント手続（町民意見公募手続）の実施結果について

1. 概要

意見を募集した政策等の名称：白老町過疎地域持続的発展計画（案）

意見提出期間：令和3年7月17日（土）～令和3年8月15日（日）

意見提出者数：3名

意見件数：11件

2. 提出された意見とそれに対する町の考え方

	提出されたご意見	ご意見に対する町の考え方
1	<ul style="list-style-type: none">・白老川の堤防整備や水道管の取替えなど、着実に実を結んでいると考える。・日高のあるまちでは、木（防風林）を植えたら、昆布が生え、魚が集まり、漁が盛んになり、魚が獲れ、人が集まり、産婦人科病院も建てられ、町が盛んになった例がある。・白老町も地道な行政（町）のメンテナンス（心も、身体も、建物も）によって町の言う町民の潜在能力を引き出す、人を生かす、引きよせる力を秘めていると思う。	<p>白老町過疎地域持続的発展計画では、第6次白老町総合計画で掲げるまちの将来像「共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち」の実現に向けて取り組むこととしております。</p> <p>将来にわたり町を持続的に発展させていくためには、ご意見にあります地道な町のメンテナンス等や、人と人とのつながりを大切にしながら、取り組んで行くことが大切であると考えております。</p>
2	<ul style="list-style-type: none">・何故、現行計画（H28～R2）の評価・分析（計画と実績の差）、達成率、良かった施策、悪かった施策他）を踏まえ、今回の計画策定としないのか？換言すれば、政策の継続性が維持されてない	<p>白老町過疎地域自立促進計画（H28～R2）では、まちの将来像「みんなの心つながる 笑顔と安心のまち」の実現に向け、基本方針と施策目標を設定し、過疎地域の振興に関する様々な事業を展開してきました。まちの将来像や基本方針等は第5次白老町総合計画との整合を図り設定したことから、白老町過疎地域自立促進計画における評価・分析等については、第5次白老町総合計画の進行管理に合わせて行うことで、効率的で効果的な計画推進を行ってまいりました。今回の白老町過疎地域持続的発展計画（R3～R7）策定においては評価・分析等を行い策定された、第6次白老町総合計画との整合を図り政策を推進してまいりたいと考えています。</p>

3	<p>・P8[公共・交通]で日常生活の足が確保との記載があるが、元気号他の公共交通が、乗客がほとんどおらず、空気を運び、税金を無駄使いしていると言われ続け長期改善されないが、今回の計画ではどう改善するのか？また、改善されるとどうなるのか示してほしい。</p> <p>・P22[公共・交通]6行目 利便性の向上を図ってきたとあるが、向上を図る為に行った施策及び結果は？また 4行目にますます重要になるとあるが、元気号他ガラガラ状態が改善されてないのにどう考えれば重要と認識することができるのか？根拠を示してほしい。</p>	<p>町民の生活交通手段の確保や高齢者等の外出機会の創出等を図るため、交通事業者等と連携しながら、利便性の高い、持続可能な公共交通サービスの充実に努めるとともに、積極的な情報発信等により、公共交通の利用促進に努めております。また、交通弱者の生活の足を確保するため、利便性の高いドア・ツー・ドアでの移動が可能なデマンド交通の拡充や、通院、買い物、都市間移動などが快適に行えるダイヤや経路の設定など、多様なニーズに対応した生活交通サービスの提供に努めていきたいと考えております。住民の多様なニーズに応じた利便性の高い地域公共交通を構築することにより、町民の皆さまに住んでよかった、いつまでも住み続けたいと思ってもらえるまちを実現していきたいと考えています。</p> <p>本町では、地域公共交通の効率的な運行や、利用者の利便性向上を図るため地域公共交通網形成計画の策定、「元気号」の運行車両の増、デマンドバスの導入等を実施してまいりました。しかし、地理的要因などから定時定路線のバス運行により住民ニーズに対応する事には限界があり、暮らしの利便性と快適性を確保するための交通モードの選択が課題となっています。P3人口の推移（国勢調査）にもありますとおり、65歳以上の老年人口の増加が顕著に表れてきていることから、日常生活を支える公共交通の役割は今後ますます重要となると考えています。</p> <p>また、地域公共交通の改正に向けた説明・意見交換会を令和2年度より計18回実施しており、利用者の意見・要望をくみ取りながら、より快適な日常生活を送ることができるよう引き続き改善に努めていきたいと考えています。</p>
4	<p>・P10[港湾]第3商港区での取扱目標、略4百万tに対し、ここ10年近く目標の3割位しか達成してなくて税金の無駄使いだと思うが、賑わうまちの実現が全くできていないと思うが、どうやって実現を目指すか？</p> <p>・P14[港湾]4行目「防波堤等が未完」とあるが、何が原因で未完なのか？</p>	<p>地方港湾白老港は道央圏の物流拠点の一翼を担う港湾として、また、海岸保全事業や水産振興事業などの公共工事にも利用されるなど、道内地方港湾では令和2年まで14年連続第1位を記録しています。港湾利用や港湾整備がもたらす経済波及効果も大きいことか</p>

	<p>また、10年近く経つが、未完状態が継続している理由は。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P14[港湾]10行目「更なる利用促進」…完成してからの利用促進策とその途中経過及び結果 	<p>ら、今後もさらに港湾利用を伴う企業誘致活動や新規取扱貨物の発掘を行うとともに、ウポポイをセールスポイントとしてクルーズ船の誘致にも努めていく考えです。</p> <p>白老港整備の事業として島防波堤の整備（延長）が残っていますが、本施設は港湾内の静穏度を高める重要な施設であります。</p> <p>今後の港湾整備の方針については、今秋開催される「北海道開発局事業審議委員会」による再評価により、完成年度や残事業費が示されます。</p> <p>港湾の完成により、静穏度が向上することから、港湾利用を伴う企業誘致活動や新規取扱貨物の発掘を行うとともに、ウポポイをセールスポイントとしてクルーズ船の誘致など、港湾利用の促進に努めていく考えです。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> • P10V（地域自治）について、「町民と行政の情報共有により相互の信頼関係を深める」に関し、白老町役場では「自治基本条例」「公文書管理規則」で同様の規定があるが、本計画の現行計画やバイオマス事業、第3商港区事業、しらおい産直センター、HAKU事業で役場は災害時でないから作らなくてよい他で隠ぺいしようとしているが、このようなことをして、町民に政策決定プロセスをオープンにしていない現状でどうして「情報共有」とかの記載ができるのか。 • 白老町役場は町民との信頼関係を深めると言えるのか。 	<p>まちの将来像「共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち」を実現するため、第6次白老町総合計画における5項目の基本方針を白老町過疎地域持続的発展計画の基本方針としております。基本方針V 共に生き共に創る、町民主役のまち（地域自治）は、まちの将来像実現に不可欠なため記載しています。</p> <p>今後も適正な情報共有により町民との信頼関係構築に努めていく考えです。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> • P12(3) 計画 備考「将来的な事業効果あり」との記載があるが、具体的（数量化した）効果がないのはどういうことなのか。（P18以降も同様） 	<p>各計画備考欄において「将来的な事業効果あり」と記載していますが、これは令和3年度地方債同意等基準において、過疎地域持続的発展事業の対象外経費として「地域の持続的発展に資することなく効果が一過性である事業に要する経費」が明記されたことを受けたことにより、当該施策の効果が将来に及ぶことを記載する必要が生じたことによります。具体的（数量的）な記載が地方債の同意等を受ける上で不用であることから、計画上では「将来的な事業効果あり」として、統一した記載を行っています。</p>

7	<ul style="list-style-type: none"> •基本的に役場が主張する本計画は、計画というレベルに達していないと思えるので、計画と主張する根拠は。 •役場が計画と主張する本小冊子の中で、根本的なこととして町のグランドデザインは何か。 	<p>令和3年4月1日に制定された過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（令和3年法律第19号）第8条の規定及び総務省からの計画作成例などに基づき計画を策定しています。</p> <p>過疎化を食い止め、地域の自立を促進するとともに、まちの将来像「共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち」を目指すこととしています。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> •「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」の監督官庁はどこか？役場が計画と主張するこの小冊子が、この措置法で求めている計画に値するのか照会すべきだと思うから。 	<p>過疎地域持続的発展市町村計画については総務省です。</p>
9	<p>観光に関して</p> <p>本来ならば過去の例に倣い、オリンピックの開会式でアイヌ文化が紹介されてもよかったのに、「そぐわない」ということで採用されませんでした。このことからわかるように、日本人はアイヌ文化にはほとんど関心がなく、ウポポイができたからと言って一般の観光客が増えるとは思えません。（アイヌ文化を広めなければという使命感は立派ですが、理想だけでは食べていけない！）</p> <p>日本人に限っていえば、旅行はやはり「温泉に入りたい」「美味しい物が食べたい」「あそこの風景が見たい」などという単純な理由が多いのではないのでしょうか。ウポポイに頼るのではなく、「白老に来たら、立派な国立博物館があったよ〜！」という状況を作り出さなければいけません。そのためには、基本的な町のイメージ作りを再構築して、マスコミやSNSで取り上げてもらう機会を増やす必要があると思います。因みに、伊達市は「北の湘南」らしいです。以前、市のホームページのトップページに大きく書かれていました（現在は別の場所に移動）。道外の人間にとっては興味をそそられる文言です。が、白老町のホームページには、そのようなパツとイメージが湧くような表現もなく残念です。観光はまず第一に、「イメージ」が大切です。白老なら「北海道の軽井沢」とか、何か旅行者が訪れたいと思わせるような工夫が必要です。そのためには：</p>	<p>白老町過疎地域持続的発展計画では、第6次白老町総合計画で掲げるまちの将来像「共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち」の実現のため、総合計画における基本方針、基本計画等を本計画にも適用することとしております。ご意見のありました3項目（観光・移住・防災）について上記を踏まえた町の考え方は以下のとおりです。</p> <p>観光における町の「めざす姿」ですが、「自然や歴史、食、温泉など、白老の魅力を求め、何度も訪れたいくなるまち」（地域資源を最大限に活かし、おもてなしの心をもって迎え、何度も訪れたいと思ってもらえるまち）であります。この「めざす姿」を実現するためには、魅力ある観光地の形成、魅力ある地域資源の活用、訪れやすいまちづくりの整備・充実、新たな誘客への取り組みが重要であると考えており、各種事業を実施しています。</p>

1. 町のロゴマークの変更

現在のロゴマーク（高波が押し寄せそうな海の中に海底火山？）は意味不明かつ傾いていて縁起が悪い。さらに、ロゴに「北海道にある元気な町」というキャッチフレーズが入っているが、元気な町は日本中そこら中にある。ロゴマークは、それを見ただけでどういう町なのかイメージできるもので、かつキャッチフレーズは入れないのが望ましい。

2. 町の木の変更

現在、ナナカマドが町の木となっていますが、ナナカマドは北海道の多くの町で採用されていて特に白老を表しているとは思えません。白老ならば、ナラの木、マユミ、ニシキギはどうでしょうか。秋になるとマユミはピンク、ニシキギならば真っ赤でとても印象的です。桜並木道は日本中どこにもありますが、マユミの木の並木道は多分日本でも珍しいと思います。（ただし、マユミの葉っぱは鹿の大好物なので、鹿対策が必要になる。ニシキギは食べない。）

3. 白老特産のスイーツや果樹の必要性

お土産にはスイーツやジャムが欠かせません。厚真町はハスカップで有名ですが、白老には独自の果樹がありません。ならば、いっそ作ってはどうかでしょうか。白老は雨が多く軽石だらけなので、ベリー類がよく育ちます。特にキイチゴはあちらこちらに自生しています。これらのキイチゴ、または日本では高級なラズベリーを育てるのはどうでしょうか。北海道の下川町のある農園では、森に自生しているモリイチゴ（＝シロバナノヘビイチゴ）を栽培して、地元や東京のケーキ屋さんに卸しているそうです。

4. 白老特産の魚

鵜川のししゃもは全国的に有名ですが、白老の特産、たらこをどれだけの人を知っているのでしょうか。（私自身はたらこ→めんたいこ→福岡のイメージでした。）やはりシンボルとなる魚は「その時にそこに行かないと食べられない高級魚」という物がよいので、白老ならば、個人的にはポタンエビがお勧めです。

5. 「おもてなしガイド活用推進事業」という項目がありますが、どういう場面で旅行者がガイドを使うと想定しているかよくわかりません。ウポポイなら専任のガイドがいますし、山、木、花、魚など専門知識に通じている

以下、1～6まで貴重なご意見を誠にありがとうございます。

1・2については他市町村との差別化を図り、町のイメージを高めるためのご意見として、3・4については、新たな一次産業の育成や、ブランド力強化のためのご意見として、参考とさせていただきます。

5の「おもてなしガイド活用推進事業」ですが、観光ガイド養成講座を受講した町民らが、地元目線で旅行者を案内することで、地域の文化や自然などの魅力を伝える活動であり、本年4月には「白老おもてなしガイドセンター」を立ち上げました。事務局は観光協会に設置されており、旅行者からの依頼を受け、ニーズに応じてガイドを行っており、地域活性化の推進に努めています。

6の「白老町観光大使任命」ですが、白老町の歴史と文化・豊かな自然・温泉など豊富なブランドを全国に発信するため、ゆかりのある著名人を「白老観光大使」に任命しており、現在は、白老町の名刺をお配りし、それぞれの活動の中で、白老町のPRを実施していただいています。より多くの方に白老町をPR出来るよう努めていきたいと考えています。

	<p>ならいざ知らず、その辺の史跡巡りや町案内なら、旅行者は事前にネットで調べつくしてくるので使わないと思います。もし、質問があったら、インフォメーションセンターやホテル、お店などで聞くでしょうから、おもてなし講座は旅行関連業者の人が受けるべきでは？</p> <p>（おもてなしガイドが外国人をターゲットにしている、外国語でのガイドというなら話は別ですが。）</p> <p>6. 単に一例として書かれているだけだと思いますが、白老町観光大使任命は、芸能人を任命するとお金がかかり、一般人だと、ほかの市町村を見ている限り、よほどのことがない限り大して見栄えがしないので、賢明なアイデアとは思えません。</p>	
10	<p>移住に関して</p> <p>町は若者の移住者を望んでいるようですが、発想を変えて高齢者施設への入居者や定年退職者を移住のターゲットするのはどうでしょうか。都会では高額で順番待ちの高齢者施設でも白老ならすぐに入所できます。また、白老には温泉付き住宅の空き家も多く存在します。町として、日本でも希少な「温泉付き住宅」があるということを全面的に出して、積極的に売り出すべきです。高齢者でも人口が増えれば、若者の職も増えていくと思います。ただ、移住者にとって一番大切なのは「病院」です。町立病院の医師はほとんどが出張医師ですが、安定的な運営を考えた場合、白老町の高校生が医大に合格した場合、学費を卒業まで全額負担し、卒業後は町立病院に勤務してもらう、というような思い切った政策も必要かと思います。</p> <p>今回の計画には入ってなかったようですが、「地域おこし協力隊」というのは不要だと思います。100歩譲って、道外の人なら目線が違っているので許せるのですが、同じ北海道内の人に来て考え方がほぼ同じなので、新たな発展性はないと思います。</p>	<p>移住（産業連携・雇用）における町の「めざす姿」ですが、「働きたい人が求める、多くの雇用の場があり、安心して働くことができるまち」（地元で安心して働く場所がたくさんあり、若い労働力が還流するまち）であります。この「めざす姿」を実現するためには、産業連携の推進と投資意欲の醸成、雇用機会の拡大と就業環境の充実、移住・定住の促進、企業誘致の推進が重要であると考えており、各種事業を実施しています。</p> <p>若者の移住・定住施策として、就業の促進や雇用機会の確保及び結婚支援などの施策を推進していますが、定年退職者等の移住施策として、ご意見にもありますとおり温泉付き住宅の活用は、とても重要な視点であると考えています。現在、町の産官連携による「しらいおん移住滞在交流促進協議会」の活動では、首都圏でのPR活動、温泉付き住宅情報のSNSでの発信、短期間の移住体験プログラム「おためし暮らし」などを推進し、幅広い年代層に対しPRに努めています。</p> <p>「地域おこし協力隊」についてですが、事業計画では「～養成事業」と記載しており、令和3年度においても各隊員が活動しています。地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等に移住し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域協力活動を行いな</p>

		<p>がら地域への定住・定着を図る国の制度であります。今後も本制度を活用し、地域の課題解決や発展等に努めていきたいと考えています。</p>
11	<p>防災に関して 防災放送は窓を閉めていると聞こえませんし、窓を開けているとうるさい。そのため、現在は、防災ラジオを配布している市町村が多く存在するそうです。白老のインターネットの普及率はどの程度なのかわかりませんが、SMS や LINE などでも情報を流してほしいです。</p>	<p>防災・減災における町の「めざす姿」ですが、「地域防災力が高く、災害に強いまち」（災害に強い都市基盤の整備促進と、地域住民の自助・共助の精神の醸成による地域防災力の向上に努め、災害に強いまち）であります。この「めざす姿」を実現するためには、防災・減災体制の強化、地域防災力の向上、治水・海岸保全の推進が重要であり、国や道との連携を含め、各種事業を実施しています。</p> <p>防災行政無線放送は、緊急時に町民の方へ内容をいち早くお知らせする無線で、町内全域にスピーカーが設置されていますが、防災訓練等においても、聞こえにくい等のご意見を頂戴しているところであるため、難聴地域にはラジオ型受信機を配布している他、放送内容を自動音声で確認できる電話サービスや登録制メール、YAHOO 防災アプリからの発信を行っており、町民の皆様にも有効活用頂けるよう周知等に努めていきたいと考えています。</p>